

令和3年9月3日

うきは市議会
議長 中野 義信 様

総務産業常任委員会
委員長 伊藤 善康

委員会調査報告書

令和3年第3回うきは市議会定例会において、閉会中の継続調査申し出の所管事務調査を行ったので、うきは市議会委員会条例第36条の規定により、下記のとおり報告する。

記

【調査テーマ】

1. 6次産業化研究開発・事業化支援センターの取り組みに関する調査
2. 自然環境及び生物に関する実態調査

1. 6次産業化研究開発・事業化支援センターの取り組みに関する調査

(1) 日 時 令和3年7月21日(水曜日) 9時24分から11時38分まで

(2) 場 所 うきは6次産業化研究開発・事業化支援センター

(3) 出席者 (11人)

総務産業常任委員会 6人 農林振興課 3人

うきは6次産業化研究開発・事業化支援センター職員 1人 議会事務局 1人

(4) 調査の要旨

うきは6次産業化研究開発・事業化支援センター「うきは夢ラボ」は、農業者等の所得増大を推進し、地域産業の振興を図るため、農業者や商工業者等が自ら行う地域農産物等を活用した加工品等の研究開発及び事業化に向けた支援を行うための施設として、令和元年7月にオープン。指定管理者として株式会社イーストが指定され、2年が経過したところである。この間の取り組みについて調査を行った。

(5) 主な内容

①利用状況及び事業報告等について

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、施設利用休止期間中の利用者は減少したが、果物の最盛期にあわせて利用者は増えている。また、定期的な利用者や営業許可申請をとっての利用者が増加傾向にある。12月は主に柿のドライを作るための熟成乾燥庫の利用予約が増え、果物の時期には農業者、それ以外の時期には商業者の定期利用という傾向になっている。

施設を活用した開発事例としては、柿、梨、いちじく等ドライフルーツの加工が多く、市内の道の駅等で販売につなげている。

また、菓子製造業や惣菜製造業の保健所許可申請の立ち合いや、ドライフルーツ・パウダーへの加工業務の受託等、利用者へ様々な支援を実施した。

〈 施設利用状況 〉 ※見学者を含む利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
令和元年度	-	-	-	109	41	80	101	122	45	48	109	69	724
令和2年度	10	休館	20	61	58	66	122	73	72	44	65	84	675

〈 販路開拓状況 〉

福岡市内の店舗等に農作物や加工品の販売を行った。

主な販売先と実績等は下記のとおり。

販売先	実績等
パンストック	巨峰、柿、キウイの規格外フルーツを使用したパンを販売。SNS上でもかなり好評。フードロスの課題解決にチャレンジし、メディアにも大きく取り上げられた。パンストックは福岡人気No.1ベーカリーと評されている。
株式会社 Plan do see	運営するホテル(The Luigans Spa&Resort)でうきはスイーツフェアを開催。デザートビュッフェ以外にカルボナーラやカレー、ベジタブルサンドなど、うきはの食材を様々な形で調理。
Food way	福岡県内3店舗で、「うきは魅了フェア」として、果物販売のイベントを開催。大変盛況で、年間で約30日程度実施。
久留米製麺 株式会社	うきは産の冷凍トマトピューレ(2倍濃縮)を活用したトマトラーメンを開発いただいた。8月上旬から販売予定。
竹本油脂株式会社	大手油脂会社である竹本油脂の冊子に「うきはフルーツ王国大作戦」という記事が掲載された。東京の自由が丘ロール屋辻口シェフと高木市長との対談や、うきは夢ラボでのロールケーキ試作の様子、ミエルと開発中の柿キャラメルを使った有名シェフの活用レシピ等が掲載された。
(その他の実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況下、換気がよいTUKTUKを活用し、糸島市にてうきは産の野菜や果物などの移動販売を実施。 ・「未利用」な恵を、「魅了」する恵へ変えていく「うきはみりょうプロジェクト」が福岡広告賞を受賞。フードロスの課題解決の重要性発信とうきはのブランディングにもつながる施策となった。

その他の取り組み

- ・農産物加工の工程やターゲット、用途等を情報として蓄積し、今後デザインした冊子(レシピ集)として紹介できるように準備を進めていく。
- ・アドバイザーを中心とした講師による講習会を実施。
(衛生管理の基本と加工作業管理、パッケージ包装・デザイン、SNS活用等)
- ・アドバイザーによる利用者へのアドバイス・提案・提言を実施。アドバイザー自身も熱心に商品の試作を重ねている。

②施設利用の製品・商品の例

商品	加工種類	産物
柿そうす、柿ジャム	卓上攪拌機にて加熱攪拌、充填機	うきは産柿
冷凍スムージー	果物・野菜のカット冷凍、真空パック	うきは産 イチゴ購入
セミドライフルーツ	真空パックでの漬け込みと熟成乾燥	うきは産 とよみつひめ
いちごのスノーボール クッキー	遠赤外線乾燥、スピードミルによる粉末	うきは産 あまおう
柿のチャツネ	ガス台、充填機	柿、ぶどう (自園栽培)
ニンジンスープ	ミキサー、ガス台、急速冷凍、真空パック	うきは産 にんじん
プリン	スチームコンベクションオーブン	卵(自園)

【主な質疑及び意見等】

Q：農繁期と施設の利用時間がマッチしないので、利用したいが利用できないとの声がある。対処できないか。

A：利用についてアンケートをとっているが、時間外の取り扱い等は検討課題である。農家が使いやすい方法を探っていく。

Q：生産者減少。いかに生産基盤を助長するかだと思ふ。現状どう考えるか。

A：農業者は生で売りたいという考えがある。1割の規格外品からどれだけ売り上げを上げるかだと思ふ。生産基盤の支援は農林振興課で、ブランド化はうきはブランド推進課で、両面でやっていく。

Q：株式会社イーストは、当初食品ロスをなくすと掲げていた。また、生産者の所得向上や定住に取り組むとのことだった。3年目なので結果を出さねばならないと思ふが、数値でわかるか。

A：令和2年度の規格外の有効利用については、仕入れが約2,508kg、約288万円。販売は約321万円。JAや各農家に対しては啓発を行っている。目指すところは所得向上ではあるが、それを数値で出すことやこの事業をデータで推し量るのは難しい。成功事例を模索している状況である。考え方は継続して進めていきたい。

Q：地元での情報発信が見えない。農家に施設が浸透しているか。

A：推進協議会でも今後も周知していく。

Q：新商品のトマトラーメンは大手企業なので売れると思ふ。トマト生産者に1～2%落ちるような仕組みが必要ではないか。

A：マージン制になれば、売れることに興味がある農家もいる。検討したい。

Q：福岡広告賞を受賞したデザインをお土産用の袋に使って販売してはどうか。

A：推進協議会、うきはブランド推進課、株式会社イーストと検討したい。

意見及び要望

- ・果物を1つ特化して販売にこぎつけてはどうか。何か1つ打ち出すことを考えてもらいたい。
- ・果樹勉強会に力を入れてほしい。
- ・宣伝が足りない。もっとマスコミを使って大々的に宣伝をしてほしい。
- ・残留農薬については、十分注意をお願いしたい。
- ・規格外品が所得につながる仕組みづくりを、ということでできた施設である。期待している。

(6) 所見

この施設は、市内で採れる果物を含む農産物を加工し、付加価値をつけて販売し、農業生産者の所得向上につなげたいという目的で、令和元年7月にオープンして、今年で3年目を迎える。

初年度は順調なすべり出しだったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者は減少している。果物の時期には農業者、それ以外の時期には商業者の定期利用という傾向になっており、加工品は今のところ個人による果物のドライフルーツが多く、道の駅等で販売しているそうである。

今のところ、うきはのブランドになるような商品開発には至っていないが、アドバイザーによるアドバイスや、アドバイザー自身も商品の試作を重ねているとの報告もあり、今後には期待をしたいと思う。

今年のおどろは大変な不作である。このような時に、生産者の所得向上に役立つ役目を果たす6次化センターであってほしいと心から切望するものである。

2. 自然環境及び生物に関する実態調査

(1) 日 時 令和3年7月21日(水曜日) 13時10分から16時まで

(2) 場 所 第1委員会室、市内現地調査

(3) 出席者(9人)

総務産業常任委員会 6人 水資源対策室 2人 議会事務局 1人

(4) 調査の要旨

令和2年度組織機構改革により、水資源対策室において自然環境・地理的環境分野への対応を促進するための事務が追加された。議会からもかねてより指摘・要望していた分野である。現状と取り組みについて、現地調査を含めた調査を行った。

(5) 主な内容

①うきはテロワール生物多様性調査について

市内に生息する動植物の現況を把握し、今後の生物多様性に配慮したまちづくりや多岐にわたる施策につなげていくための基礎調査を実施する。また、地域の環境リーダーの育成や、住民参加型の体験イベントを通して「人と自然が共生するまち」を目指していく。

3年かけて、次のとおり調査を実施する。

1年目（令和3年度）

うきは市を対象に、国や県、大学及びNPO等各種団体が過去から現在に実施した市内の動植物の調査情報を収集し、整理するとともに、動植物の現況把握を目的とした調査計画案の作成とモニタリング指標種候補の選定を行う。

（業務委託先：株式会社地域環境計画九州支社）

2年目（令和4年度）

市内の生物多様性の現状や特性を把握するため、市内6か所での現況調査を実施し、調査結果をリスト化するとともに生物多様性に関する課題を整理する。またモニタリング指標種を選定するとともに、環境リーダーの育成計画とモニタリング調査の計画立案を図る。

また、うきは市の生物多様性の魅力や、市内に生息する動植物を紹介する啓発資料を作成する。

3年目（令和5年度）

地域の環境リーダーを育成し、環境リーダー主体のモニタリング体制を構築するとともに、住民参加型の体験型イベントを実施する。地域住民へ自然に関わるサービスを提供していくことで、持続可能な地域づくりを担う市民を育成していく。

②現地調査

市内4か所の現地調査を実施した。調査箇所及び実態については、資料①参照。

【主な質疑及び意見等】

Q：河川工事の際は、生物を生かすための工夫が必要ではないか。

A：自然に対する認識を上げること、また、自然に優しい工法が必要である。現行の環境基本計画では、河川工事には動植物に配慮した工事を行うこととしている。工事担当と情報共有していく。継続的に勉強を広げていきたい。

Q：今年度の「うきはテロワール生物多様性調査」具体的調査内容は。

A：国・県の環境アセスメント等を収集したものをコンサルに見てもらい、まずまとめてもらおう。現場の調査が必要だろうと思う。問題を見つけてほしいとコンサルには言っている。指標種を30程度選定する。分析をした上で、最終的には報告書を作りたい。

Q：道路河川愛護のあり方について、ごみ拾いの意識付けに子供会ができる範囲でやってはどうか。河川をもっとやるときれいになると思う。市として力を入れてほしい。

A：公共土木係、生活環境係につないでいきたい。

意見及び要望

- ・山の保水力がなくなっているので、魚が生きていけない。山の手入れをしないといけないと思う。
- ・生物保全の方面も取り組んでほしい。

- ・SDGsは、政府も進めている。この機運に乗って、どんどん進めてほしい。うきは市に何が足りないのかという視点で取り組んでいくべきだと思う。
- ・意識改革の啓発に取り組んでほしい。

(6) 所見

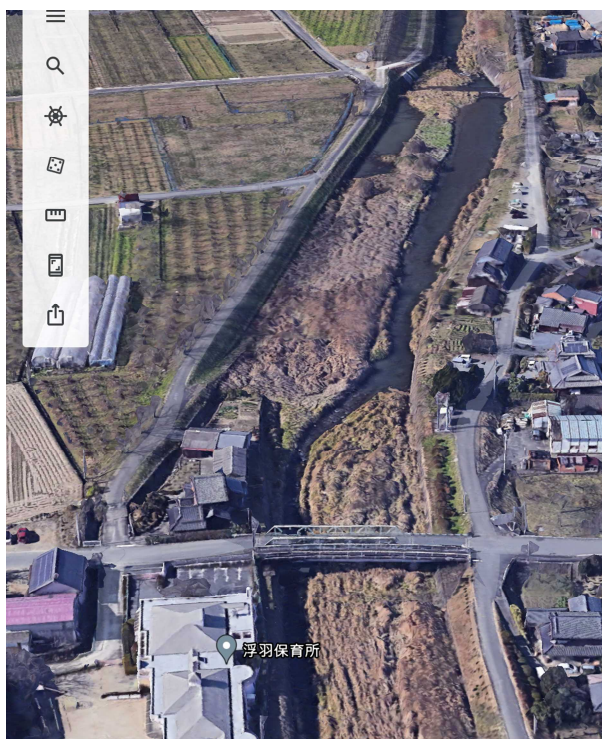
今回は、水中生物調査を市内河川4か所で行った。調査方法は水面上からの目視であり、水中の詳しい調査には至らなかった。どのような生物が生息しているのか、はっきりつかめなかった。しかし、場所によっては、魚名はわからないが、小魚が数匹泳いでいるのが確認できた。移動途中の水田の中には、ジャンボタニシが大量に繁殖していて、おたまじゃくしも見当たらなかった。

私は、小・中学生の頃、5～6年間の夏休みは、毎日のように水中眼鏡をつけて川に潜っていた。その頃は、魚や他の生物も多く種類と数があったが、今はいないようで、自然環境の変化については非常に残念な思いを抱いている。

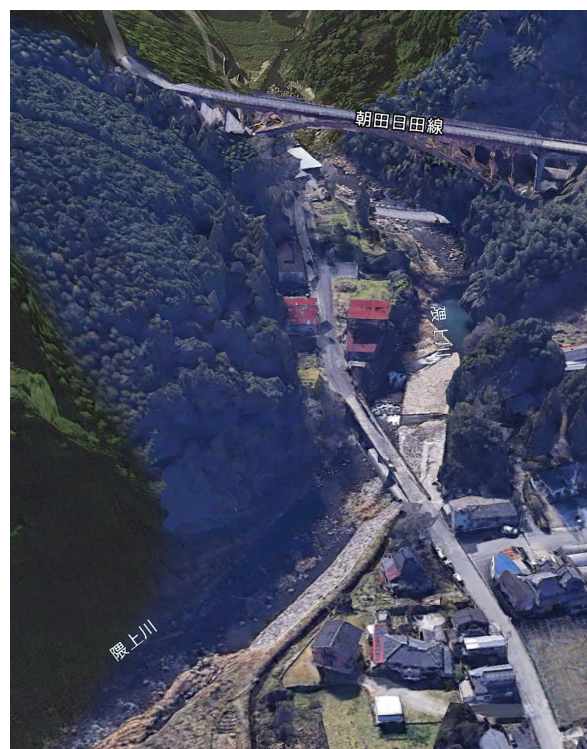
今年度から3年をかけて、市で調査をする計画である。絶滅している生物もいるかと思うが、生き残っている生物を保護し、数を増やし、後世に残してもらいたいと思う。SDGsにも関係した課題であるので、人と自然が共生するまちづくりの先駆けとなるように取り組んでいただきたい。

以上、総務産業常任委員会の閉会中の調査事項報告とします。

自然環境及び生物に関する実態調査 現地調査資料



1 か所目：巨瀬川（浮羽橋下流付近）
 ※付近では河川の浚渫が行われてはいるが、河床が高く、水量も少ない。浅い部分に小魚を目視した。



2 か所目：隈上川（一の瀬橋付近）
 ※水面に上流部らしい透明感がある。小魚を目視した。日ごろは川蟹も散見される。初夏にホタルも飛び交う（餌のカワニナが生息）。



3 か所目：隈上川（鶏鳴橋上流付近）
 ※小塩川が隈上川に注ぐ河口から数十メートル下流で、水量が多く、流れも速い。小魚を目視した。



4 か所目：赤尾川（国本橋付近）
 ※赤尾川は柴尾山を水源として、流量に乏しい。コンクリートで護岸されている。水草が生い茂る合間の水たまりに小魚を目視した。市のシンボルであるかわせみが散見された。

